

## 企業行動研究部会（#333）議事録

日時：2024年6月10日（月）18:00～20:00

場所：リモート会議

参加者（15名）

省略

### ●事務局連絡

#### 。研究発表大会

6月29日&30日、関西大学高槻ミューズキャンパスで開催（詳細は学会HPをご参照ください）<https://www.jabes1993.org/2024/05/jabes32.html>

#### 。定時総会

定時総会の申し込みをお願いしたい。総会への参加はオンラインで可能。参加が難しい場合は委任状を提示すること。

#### 。会則の一部変更

今回快速の一部変更がある ➡ 学生会員を無くし、正会員のみに切り替える。

### ●研究発表

テーマ：「紅麹による健康被害問題」

発表者：出口順輔部会員

#### 概要

##### 1. 問題提起

健康食品を摂取して健康被害に遭う、という悲惨な事件が起きた。ここから何を学ぶべきかを考える。

##### 2. 健康食品行政

政府が機能性表示食品を「届け出制」としたため、市場参入を大幅に緩和してしまった。

##### 3. コーポレートガバナンス（以下CG）改革

CG改革を進める製造元の会社は、最新と称されるCGを構築し、著名社外役員を登用した。

##### 4. 公表の問題

最初の医師の情報提供から、社外取締役への情報共有まで2か月強を要し、その二日後にやっと対外発表となった。

##### 5. 回収の問題

自主回収に踏み切ったが、当局は、遅きに失した会社の対応を問題視し、重ねて回収命令を発するという最悪の事態となった。

##### 6. 考察

該社は、近時、中規模の不祥事を繰り返したが、今回の重大事故でハインリッヒの法則に合致することとなったと考えられる。また、事件の要素を分析してみると、偏に組織風土に起因するものといえる。

##### 7. 結論

「企業倫理の制度化」に不祥事の防止効果は少ないといえる。

### ○意見交換・質疑応答（抜粋）

- ・ ニュースで聞いていたが、本日は突っ込んだ話でお話をいただいた。
- ・ GMPは日本医薬工業会が自主的に設けている基準。
- ・ 小林製薬は、マーケティングに長けている。製薬会社というイメージをうまく使っていると感じている。
- ・ GMPは医薬品として承認を取得する場合に必要な法律。ここまでのレベルに今回の事案内容を上げるか？

- 産業育成の観点から、そこまで上げるかが検討されている。医薬品でないものまで **GMP** の対象とするのか？
- 問題は、健康被害が出るのがわかった時点で、取るべき対応ができなことが残念。JJ のタイレノールの例から考えると、何か起こっているという時点で、回収指示を出した意思決定は大したもの。小林製薬は国の判断を待った形ではなかったか？
- 医薬品の **GMP** と食料品のそれは違う。その食品の **GMP** すら守られなかったことは問題だが、**GMP** の違いそのことが問題ではない。
- 本件に最初感じたことは昭和電工の M トリプトファンの中毒事件を思い出す。今回の問題も大きな問題を引き起こしたことに同様に問題視する必要がある。
- 規制緩和が安倍内閣主導者に行われたが、経団連の要望から行われているが、その当時から各界からの反対意見が多数起こっている。日本弁護士連合会がこのままでは大事件を引き起こすと警鐘している。
- 安易に機能性食品を拡大することに大きなリスクがあると消費者団体等から警鐘されていたにもかかわらず、なぜこの様な事態が起きたのか疑問がある。安倍総理の規制緩和主導が大きな要因ではないか。
- 製薬会社という形態&名称を用いた小林製薬の実態は、マーケティング的に成功しているが、消費者を騙す戸惑いを与えている感がある。製薬会社が作った化粧品やサプリの広告宣伝は、いかがなものかと思っている。
- 小林製薬の取締役や監査役の今回における責任への対応は何も言及されていないが、それで良いはずがない。社外取締役として著名人を起用しているが、彼らはどの様に機能しているのか、今後株主代表訴訟へと発展することはしないのか？ 実際に彼らに質問状を出したらどうだろう。
- 代表訴訟については、株主は取締役や監査役外部取締役の構成を考慮して投資しているが、その影響を換算できないと難しいかと思われる。
- 製薬という製品が実際の小林製薬にはない。このことは他の製薬会社は小林製薬についてどの様に思っているのか？名は体を表すのでは？
- 本件に関わる機能性表示食品への対応は野放し状態であり、対応が必要だと考えている。
- 小林製薬は **BERC** の会員にはなっただけでなかった。商売の上手い会社だという印象がある。企業体質の悪い面が出てしまった感がある。有識者がいるにもかかわらず効かなかたり、その企業体質が今回の問題の本質かもしれない。売上は右肩上がりを 20 何期継続をしているだけに、落とし穴にハマった感がある。

以上